

自由連合

Libera Federacio

N-ro 36

1972年
2月25日

山崎市がめ山354
自由連合社
振替 大阪1264

定価 50円

自由連合が今年で3周年を迎えることになる。2周年特集は流産。そして3周年特集は？、自由連合は今年度の春に公開なん。なん？ (蛙)

七億の神州

これ悉く舜堯

人民公社と共同体

玉川信明
聞き手 尾崎弘

私が友人二人と玉川信明さんを訪れたのは一月二日であった。世間はいろいろの正論とやらで着飾った婦人たちが、この北陸の街路にあらわれていた。玉川さんは三書房から出た『辻御評伝』の著者として知られているが、北陸の富山、それも市の中心部からかなり離れた農村地帯に住んでおられる。不便ながらも「きんか」と聞くと、「いや住み易くてねえ」という返事が返ってきた。

玉川さんは想像していたよりずっと若い。子にグッとくっついて満面微笑を似た、しかし眼は遠田のそれとはちがったやわやわがみであった。話の道を歩みながら、大阪から持参したオマケ料理をついで話した。

最近訪中された玉川さんから、文革後の中国の現状を聞くのがインタビューの目的であったが話はいつのきにか共同体の話が入ってきた。

個人と集団の関係は

玉川 去年、二月に共同体を回ったんですがね……一燈園、山岸弘、心燈部若、あじさい村。

個人生活者にとってコミュニティは未来社会のただけで、コミュニティ生活者にとっては個人生活が未来なんだ。どの共同体でも「共同体を出たらどうしようか、やっていけるだろうか」という高校生が悩みがあったらどうだ。たとえば一燈園なんかでも、若者の8割が外へ出たい希望を持っているように思った。

キスツとモシヤフ(生産・消費とも共)同であるキスツに対し、モシヤフは生産は共産だが消費は家族別個である。の比率が6対4、から4対6になったといふけれど、キスツが衰退していく根本にはこの個人と全体の関係の問題があるように思ふ。

キスツには「モシヤフスラハ」(二意気消沈)という言葉がある。うですね。集団が心情的に一致しているとき、大きなエネルギーを持ちますが、個人と個人あるいは個人と全体が摩擦的になると、このモシヤフスラハ状態になり、エネルギー

は著しくとこなわれるわけですね。今、それがキスツにとって大きな問題になっていると思うですね。

尾崎 共同体の究極の問題も集団の問題だと思ふんですが、ただそれが個人主義とか個人主義とかいうものじゃなくて、だからといって集団主義とか全体主義じゃなくて、へやり個人を生かして得る集団の有りよう、ということに懸念があると思います。

思想投入によって

玉川 共同体に共通していることはへ無所有、ということだと思ふんですが……

尾崎 共同体ではつきりへ無所有を言っているのは山岸弘だけじゃないですか。他はへ無所有とか、へ共有になつていっていると思います。もっとも山岸弘がへ無所有を言ったところ、今の所はへ山岸弘有でしかありません。これも山岸弘流に言えば、「管理しているのだから所有しているのではない」ということになりそうなんです。

いづれにしても、山岸弘はオニヤリ的な集団は認めないんですね。米の一粒一粒はすりつぶして、モチのようにならなければならぬ、ということなんです。

玉川 そう、山岸弘は個人の集まりとしての共同体は認めないんだ。同じように個人を認めていない中国で、人民公社を存続させてゆくには、そのすごい思想的エネルギーをつみ込んでいっているんです。まあそれが、マルクス主義とかマギシズムとかですが、何らかの思想投入をしないと共同体が成り立たないのだから、人間性力学の上になって考えられないものだろうか。思想投入には、常につぎ込む側と受ける側がある。

尾崎 へつぎ込む側とへ受ける側、という立場の定立で、思想投入がへ先脳になつてしまふ、共同体は全体主義に導かれることになつて

しまふ。山岸弘では少しニュアンスが違ふと思うんです。いわゆるへ研鑽という方法でへ零位に立つことを教えるわけで、一つの思想、一つのドクトルを強制する、すなわち判断の標準を外から与えるというのではなく、一人一人が自分で判断の基準を作る手だてを与えるということになるんじゃないかな。もっとも、具体的事柄に関して結論を出さねばならない時、今の研鑽方式にどれだけの信ぴょう性があるか疑問ですが。

矛盾をかかえにまき

尾崎 共同体を回られてどういう感想をもたれましたか。

玉川 まず心算を除いて全ての共同体に、共同体を存続させている思想というものがあつた。それが一燈園や山岸弘でも、アクチュアリティよりもパッシブなんだ。シヤバで働いていた者が入ってきたり……ああいう共同体は一種の特権村で、そういうものは今の社会のあつてしかなるべきだと思う。心燈の指導員の生々とした姿なんかどこにも見られないものだ。

尾崎 人民公社では出入りは自由にできるんですか。

玉川 中国では選択の余地はありません。人民公社も封建的共同体が所有関係を交えてそのとき登場したものですから。

尾崎 人民公社とゴルホーズを比較するとどうなりますか。

玉川 人民公社は一つの国をようなものですね。文化、軍事、病院、農場、工場等々、国の持つ全ての機能を持っている。それに比べゴルホーズは生産体です。

その意味では、人民公社はキスツに似ているんじゃないですか。消費生活なんかはキスツの方がすすんでいるように思ふ。山岸弘なんかは、消費生活の面はゴルホーズに似ているように思ふ。

占拠への道

自主管理の現場から

(2)

昨年暮れ、ぼくのいる労働者自主管理企業の年末手当要求額を決定する労働組合の集会へ、労働組合経営委員会に要求するというスタイルになつてゐる。で次のような問題が持ちあがりました。

アルバイト、臨時の年末手当をどうするかを話しあう段になつて、古参の人から「アルバイト・臨時は非組合員だが、組合が救済する意味で、モチ代としていくらか出してやろうではないか」という意見が出されました。これまでの慣例ではこうなつていたらいいのですが、これにぼくがクレームをつけ、二度程持ちだした集会はかなり紛糾しました。

ぼくの主張をつめていけば、年末手当は非組合員でも、あくまで労働の対価として受けとるべきもので、組合員の恣意性にゆだねられるべきではない。というものでした。

この話しあいの中で両派とものが自主管理にとって本質的なものだけに、将来に持ちこして検討するということになりましたが、その過程で様々な問題が顕在化しました。

官僚化へのパターン

先程のぼくの主張に対して、格差は当然であり、彼らの意向をくみとる必要もない、という反論はある意味ではおろかたの労働者の意識を代表していました。それは、次のようなものです。

アルバイト、臨時には自主管理を支える責任感も意識もなく、又、社員のようにそれによって生活を支えているものとは異なり、一時的、便宜的なものである。従つて、アルバイト・臨時にまで門戸を開放すれば、組織をゆるがすことができず、自主管理の維持がでない。

この発言の背景にはいろいろな問題がひそんでゐるようですが、ひとつは、自主管理という特異な形態を維持するには、内部結束と秘密保持が必要であるという前衛的覚悟が、いかに論議をもって、新参者



等への警戒・差別が意識的に又無意識のうちに行動されてゐることです。それは、自主管理にまで至る長い苦

歩に満ちた体験の重さを共有する者同志に連環するある観念の共同性が、そのあまりの重さ故にか、或はそれを十分思想化できなかった軽さ故にか、新参の者にまで通じていく回路を閉ざし、固定化してしまつてゐるところに起因するもののようです。

このため、古くからゐるものが幅をきかし、新しく入つたものはすみっこの方にゐるといふ集團の構造をうみ出してしまつてゐます。ただ、今回のような場合には、社員・組合員のわくの中では形式的民主主義が採用され、組合員、非組合員という差別構造だけが鮮明になります。

話しあひの最中、最古参の人から次のような発言がありました。「アルバイト・臨時といつても子供ではないのだから、文句があるなら組合に入つてへー組合規約では加入が認められてゐる。この場でいいたいことをいふべきだ。」ここに私達は、集團の構造にはいつさい触れず、問題を個人に限定することによつて閉鎖性を強め、官僚化へ向かうパターンをみてとることが出来ます。あも

うに、自己が差別されてゐるのが自明な組織に、発言の有効性がないため、或いは、権利発動の機会がえられないため加盟するといふのは、その本人にとつてどれ程屈辱的なことかれません。にもかかわらず、そういうふうな成員を同化する方向に

おいて組織の維持、統一をはかうとする組織の本質は、やはり国家原理そのものだらうと思われま

す。少しい一般論になりますが、組織から特定の個人へ或いは特定の集團を差別意識の共同性をもって異端と

して排除するその時点において、その反動として組織内部の同質性・均質性のボルテージは異常に高まりま

す。そしてその高まりは、組織に帰属してゐることによつてもたらさ

るある種の特権意識なり、安心感なりには裏打ちされたものとして、一時

的には個々に充足感をもたらし

ます。しかし、これは常に新たに切り捨て

る部分といふものを用意しないでは

あかないことになり、そうすること

創造力による占拠

以上見てきたように、今の職場の中に企業本来の意味で自主的な労働者の連りによる企業管理というイメージを見出すことは、ぼくにはできません。それは少数者管理と個々の労働者の自己規制によつて成り立っているもののように思われます。これに対してぼくは、職場内外において日常的に自主的な交わりをつくつていくことを、一歩一歩やうていくつもりです。いつかは、労働者一人ひとりのほつたつとした、創造力に満ちたものによつてこの職場が占拠されんことを夢に描きつゝ、

交通事件と時刻書

交通結社の形態

花田映子

I. 書店空間の可能性

現状、模索舎が「SM戦線」を、そしてウニタ書舗が「時刻表」を、発行・発売している。いずれも、ミニコミ、自主出版物、自立誌紙等の書目とその主な内容として、以下、例えば「SM戦線」創刊号から引用する。

「われわれの情報センターへ人民資料学習センターと場としての運動論の確立への第一歩として、スナック・シコシコと模索舎を設立した。……我々の目指しているものは、ヘアワーカーミニニケーションスペースの確保と人民資料情報センターの確立である。」

つまり情報センターの意味するところは、「ヘミニコミ」パンフの交差点にだけでもそこに待込み、だれでもが手にすることができ、空間的惣括しという程度なのである。そのようにして、情報センターという名前の新たな書店が続々と誕生した。

マスメディアが発行する書物を売っている書店と、情報センターという名前の新たな書店との相違は、一体何であろうか。それは第一に新たな書店が、ミニコミ、自主出版物、自立誌紙等の一種の傾向書と主に発売している。第二に発売する新刊書と古書の区別をしていない。第三に書目を発行・発売している、ということである。けれどもこの三つの相違は、せいぜい書店の選択する書が追求する交通の可能性ではない。書店が店として存在している以上、マスコミの追求する交通を完全に逆倒させることは不可能である。

新たな書店の可能性は、そこで発売している書の可能性のみによって現在保障されている。そして、もしあくまでも書店が追求する交通の可能性を、そこで発売している書にではなく、書店空間に求めようとするならば、それはその書店が発行・発売している書目以外には求め得ない。

例えば、首都に「日本ミニコミセンター」という新たな書店が発

足したために、自立紙「メタ」を以前から発行・発売して来た「日本ミニコミセンター」は、その名称を廃してメタ編集室となった。つまり、書店を乗り越える方向は店ではなく、書を編集する方向なのである。

ところで、一軒の書店空間を初めて成立せしめ得る一冊の書目の可能性とは何か。それはその書店が発売し、マスコミの追求する交通を逆倒させようとする書に因して、どのような書店空間を成立せしめ、どのような交通事件を発生せしめ得るかというところである。つまり書目とは、一冊の書以上に新たな交通を志向する時刻表なのである。

II. 書店空間の可能性

情報内容を商品とし、情報と販売に因する交通を独立しているマスメディアが発行し、書店が発売している書は、まず第一にその読み手ではなく、買い手が必要としている。ここに、マスコミの追求する黙契された交通の意味がある。

ここ数年マスコミ界で注目されて来たミニコミ、自主出版物、自立誌紙等の書は、マスコミの追求する交通を補強したり尊重したりするたためではなく、本来それを逆倒させようとする志向を唯一の根拠とすることによって、初めて成立し得るものであった。勿論マスコミ界で注目されるということとは、安あがりな宣伝広告法ではあるけれども、知られることによつてその書が成立せしめ得るに志向が、やはり幾分かはマスコミの追求する交通に規制されてしまうものである。

書店を通さない直接購読制を基本的な軸としてミニコミ、自主出版物、自立誌紙等の書は、その情報内容よりも、まず第一にその追求している交通に意味がある。書店間は買い手ではなく、読み手でもなく、書き手へと至るための、いわば乗っ取り手を生み出すための交通を志向しているから。

例えば、ウニタ書舗が発行・発売している「時刻表」よりも、日本交通公社や交通案内社が発行している「時刻表」の方が、はるかにリアルティを伴ってせまってくる。何故

なら日本交通公社や交通案内社の書は、買い手でも読み手でもなく、唯唯乗っ取り手のみを必要としていて、人達の間に於ける交通事件を発生せしめるから。

直接購読制は、書の志向する、そして書くことの意味する交通結社の形をも示している。つまり、書が発行・発売する交通結社は常に独裁編集であり続けねばならず、それが発行・発売を宣言する前提条件である。さて、もう一つはと前に諸富洋治と宮原安春とを追放して犯罪者同盟を独裁し、現在でも谷川雁の筆名者として活躍している平岡正明が「梁山泊」という書に因する独裁編集部論を「不SWING者不許可入梁山泊」で書いている。以下に引用する。

「誌面に関してはすべての権力を編集部に与える。一、編集部は少数で構成され、七名を超えてはならない。一、編集部の判断を経ない原稿はない。一、編集部を構成する人員のうち、その半数をこえる原稿がなければ発行されない。一、編集部に対立が生じた時編集部が打倒される。編集部が対立や論争を打倒するのではない。

俺が編集部に強力な権限を考えるのは、次の理由による。一、自分たちのやり方についていかにことばはつきりしている。一、梁山泊にシンジケートが組織される。一、近い将来、「梁山泊」に大量の分子が結集する。

今、一冊の書目を発行し、しかもそののみを発売しているという書店、交通結社を想像してみよう。それが書店空間の不可能性ではなく、可能性として存在し得るのは、その書目が書店空間と交通事件の可能性である場合のみである。つまり書目とは、一冊の書以上に新たな交通を志向する時刻書なのである。

今、書店空間は可能性として存在している。

書店案内

次の書店に自連が置いてあります。

- 【札幌】アテナ書房
- 【仙台】八重洲書房
- 【東京】模索舎、ウニタ、吉祥寺ウニタ、文献堂、コマハ書店、アウアン書房
- 【横浜】ルビゴン書房
- 【名古屋】名古屋ウニタ
- 【奈良】油留不書房
- 【京都】京都書院
- 【大阪】大阪ウニタ、西日本書店
- 【神戸】イカロス書房
- 【広島】平和書房
- 広島大学生協

伝言板

何人社会回家

東京都新宿区東大久保ノの44松喜ビル バルカン社 30円45分
本書はエマ・ゴールドマンのパンフ社会における個人の地位の完結です。アナキズムに於ける彼女の立場は反ナチズムであり、マラテスタとの論争では組織について対立し、イプセン劇を借りて個人主義を強調しました。彼女の視点はこのパンフに十分に表明されています。(解説より)

シリーズ「夜学の記録」第1集

身体障害者と教育

東京都目黒区駒場東大教養学部進学相談室付連続シンポジウム実行委員会 カンパ一〇〇四以上
一九六九年一月の末、石田保昭氏が、連続シンポジウムと学問の関わりを提案した。東大闘争の間にそのが課題として担いつづけていた少数の教員・学生がこれに賛成した。……われわれの模索も三年目、その歩みのあとを記録し共有する試みが、ようやくその緒についた。それをまず、教育問題の「夜学」の部から始める。

六・一九シンポジウム「身体障害と教育」ノ八木下さんの談話ノ八木下さんを囲む会について 他
（本書より）

なんでも印刷所

「今のミニコミの流行している状況の中で今一度ミニコミのミニコミーションなんていうものを探してみたいな」って思いついて、さきのことろを、必死の紙に書き、投書すれば、集めて印刷したものを送って。……ものの送料は30円。投書、送料の送り先は、東京都右京区太秦森ヶ西町74久保田方 なんでも印刷所

エス文版

Libera Federo No.3

山鹿泰治氏なきあと、絶えていた国際交流の縮口をつくり出そうとする本紙の存在は、もっと注目

されてよいものだ。本号は *Oni kuru nian jupuan & kenbetsu nait-on Uyen, & tutumondan?* (自分自身の具体的なアジア地図、世界地図をもと)の主張のほか、イスラエルやスエーデン、南朝鮮の同志からの手紙による報告などが掲載されている。(B5判6頁)購読一ヶ月年三〇〇円、申込みは自連社へ。

共同志願者

われわれは何を始めるというのか……。文化革命だともいう。社会革命だともいう。何かしら想像もつかない、どこかいいことをしようとしているのかも知れない。しかし、それに較べわれわれがとりあえずしなければならぬことは、あまりにも具体的で、あまりにも些細で、あまりにも重たい。われわれはその重みに耐えながら、備北三年目のオーストリアを出した……。

- ★案内パンフ 50円(以下下共)
- ★備北だより(月刊) 30円
- ★備北山賊出版双書No.1

「ガールズ村」創刊宣言(谷川雁 100円)
★同No.2 人民公社(向井孝加 100円)
★大阪市東成区玉津丁目東成玉津郵便局留 備北百人委員会(振替 大阪79064)

現代暴力論

松江市北堀町22古瀬義夫
この暴力論のユニークな点は、物理力行使・強制(存在否定)・加害意志発動の三条件を満たすものとして、直接行動を生産力と結びつけている点などである。非暴力直接行動をすりこみや静かなデモに矮小化して非暴力ナンセンスと言つても始まらない。まず一読を奨める。研究会テキストとしても手頃。但し、この海賊版は印刷があまりよくない。予約有以外送料共二〇〇〇円。

自連特別号企画

ミニコミを発行している自連社員間の交流と紹介を旨として、自連特別号を企画しました。あなたのつくっているミニコミの特別号を五〇〇部、自連紙型(B4・横型・右トジ)をつくり、自連大阪まで送って下さ

い。頁数は二頁(一枚の裏表)。内容は自由。印刷や郵送が困難な場合、原紙のみ送って下さい。自連と同じ孔版紙にこちらで印刷します。(印刷費は自弁して下さい)

集まったミニコミをとり、表紙をつけて、四月に発行します。予価百円。参加者は10部無料です。

締切は三月二十五日、自連大阪必着(大阪市旭区高殿郵便局留)あなたも是非参加して下さい。(今月担当「選」)

編集室

軽井沢の連合赤軍の銃撃戦は、今日二月二七日、九日目をむかえる。「狂気の連合赤軍、罪のない人妻を人質、あらゆる新聞は書きだてた。狂気と言え、彼ら従軍記者こそ異様である。いったい連合赤軍の諸君が何をしたというのだらうか。森林法違反の疑いとかでピストルと催涙ガスで山のアジトを襲撃し、被害者をあまた山荘に追い込んだのは機動隊ではないか。凶悪なのは、その上、水責めガス責め……をしていく機動隊の方であって、連合赤軍ではないのは明らかである。

この間、なす事もなくイライラしながら、荒畑寒村「ロシア革命運動のあけぼの」を読み返してみた。十月革命に至るは五〇年間に、ロシアによって処刑された者数千人、獄中の自殺・発狂・病死は無慮数千人、シベリア流刑にいたっては数万人にのぼる。かつてほうりこまれた累累たる血みどろの人間ドラマが、今、連合赤軍の銃口から火をふいて復活しつつある。(佐藤 英夫)

編集室

今号は予定していた原稿が二つも流産してしまい、欠々の6頁、おまけに発行も遅れてしまいました。次号には、今月ながれた小池健児さんの「救援」問題の超力作が一面を飾る予定。期待して下さい。

先日、出稼ぎ農民の一人が、しつこく尋ねるTV記者に「しかたねえ」とボソリと答えたその声に心に残っている。その数日前、宮沢さんからのアンケに、農民問題は「その他」の中なのか、そこに差別がある、とあった。農民ということにこたわるなら、情報量の差もある、ある程度は仕方ないのかも知れない。だが、と思う。自分の親、アパートの隣人、職場の上司……にどれだけの切り込みをしようとするのか。ぼくらは「運動」という言葉に特殊な響きを持つたはずではないか。そしてその響きだけを追ってしまっているのではないだろうか。へ黒川 選

気になつてゐること、ある女の子
 のこと。障害物、テメエがいると
 いうこと。でもそれを確信できな
 いということ。目的、キンタマが
 おつたつような自己回心。テメエ
 がどこに立ってゐるのか見ること。
 環境を変革すること。

日本の政治、世界の政治について。
(留萌 S・K—I 年)

將來どうやって食っていくか。
 (尾道 S・M文 Ⅲ年)
 政治闘争をやったことが、結局
 自分の首を締めたという結果を導
 いただけだったので、あと一年余
 りをいかにすごしたらよいのか、
 ということ。

（氣仙沼 S・Y子 二年）
Ω Ω Ω Ω

勉強のことへ成績不良、単位が
夕落ち。 多くの個人的活動に対
する当局の弾圧。勉強したいの
が何をやったらしいのか、膨大な
資料、パンフ、あるいは教科書の
前で立往生。テストに包括される
いろいろなこと。

（東京　O・M雄　？年）
 Ω Ω Ω
 そのI、J A X X が闘争か？、
 J A X X X ー 闘争の路は？、いやな
 につまらんことです。そのZ、自
 分の民青チックなー平和・民主
 教育擁護、ベ平連チックなー論
 理化されない運動形式の幼稚な思
 考方法を抹殺し、無政府主義にこ
 だわること。

（東京 K・H・I）

Ω Ω Ω

早いところを知りたいし、その前にかわいいガールフレンドがほ

いま一番大きな問題は

しいです。いろいろしたいけど、お金がないということはものすごい障害ですね。大学へ行くとか迷ってます。成績をあげたいですね。英語部をちゃんと活動させたい。個人紙をつくりたい。竹中芳さんを沖縄に行かせてあげたい。

（土佐清水 N・H喜 Ⅱ年）
 高校、大学、就職、マイホームと
 いう一般的幸福人生を否定し、三月
 に旅に出る。

（松坂　Ⅰ・Ⅱ　Ⅰ年）

行為が行為として感じられないこと。権力への恨みはあっても「反権力」といったことが漠然としすぎてゐること。自分を逃がす己にいつも

な問題は

ゐるにきつてしまふ。何かやる
うと思つても、何かひつか
かるものが自分にあるとい
うこと。……E.T.C. 目的
……「私になること」。シ
ュールの世界を知ることへ
意識化する意味。観念の
世界のみが信じられる空間
なのだ。

一番大

（和嶋）I・M美（四年）

オ一に、一年後にせま
た受験のことである。オ二
に親からの脱出である。時
間が解決してくれるかもし
れない。

（神戸）F・K一（二年）

はま

教育の改革。

Ω

Ω

(名古屋 〇・Y彦 Ⅲ年)

部落問題と高校卒業後の
関わりについて。我が高校内におけ
る部落研の消滅状態について。

進学の問題と関係あるので下記参照
(一略)

(札幌 S・H司 四年)

Ω Ω Ω Ω

① 高校卒業後の自分の運動(自分の生き方)について不安があるのだから。

② 自分とバ平連運動の関係 ③ 自分といわゆる高校生運動の関係 ④ 男と女との関係 ⑤ 本人の面目

⑤ 自分と家族と運動の関係 マアイロイ口問題です。(金沢 N・M彦 二年)

運動としての視座から一ボクらの運動を継続する後輩がないこと。

個人的に――教師とのなれあいからくる現実陰蔽に対する個人的弱さについて。家族と自分との関係の複雑さ。家族帝国主義！。

現時卓で非政治的の日常に埋没して
いる。自分を政治活動に積極的に参
加させることをしない何ものか。そ
れをのりこえたい。今、行きづまっ
ている。その何ものかとは、自己の
精神的枯渴、氣力が欠けてしまつて
いると言ふべきだろうか。

（三重・南越 K・K子 四年）

Ω Ω Ω

その1。自分の理論を血肉化させること。つまり、具体化 抽象へのパターンを試行錯誤のくり返しで身につけること。僕は今まで、ペダントイックで難解な抽象論ばかりにとりくんできた。それが神経症的で試行錯誤を恐れる人格を形成してしまったのである。アナキズムは行動の哲学である。故に行動と思索は常に表裏一体であらねばならぬと思っ

てゐる。

その2。対話の相手を見つけ出せないこと。そのため自分の頭に論敵を作らなければならぬ。そうなる
と頭の中は非常に混乱し、煩雑にな
つてくる。その結果、自分の確固た
る意見を作り出すことは不可能にな
る。そして思考は一貫性のないもの
となり、知識は断片化されたものにな
つてしまう。今までに、アナキズ
ム、サルクス、サルトル、部落、心
理学、意味論といろいろなやつたが、
みんな葛藤を起こす原因になつてし
まったようである。

その三、断片化されたものをまとめあげねばなるまい。しかし、そのもっとも効果的な方法は？、わからない。自分のやること為すことすべに、あせりと可立ちを覚える。ただひとつ最も確実なことは「自分自身をどうにかしなければならぬ」とである。今の僕にとってあらゆる問題はそこに収斂していく。(この支離滅裂な文章が現在の僕の思考や感情を加害に表わしていると思つて下さい。

(北海道釧路 M・K三 四年)